

石川県立美術館開館35周年・金沢美術倶楽部創立100周年記念特別展

## 美の力



《芦葉達磨図》因陀羅筆（部分）

特別陳列 名物裂と茶道美術

特別陳列 静謐なる世界 ―日本画家 仁志出龍司―

■ 茶道美術名品選Ⅱ

■ 友禅 水野博 ―草花を詠う―

- ミュージウムウィーク・出世街道
- 5月の行事予定
- アラカルト ただいま展示中

# 石川県立美術館開館35周年・金沢美術倶楽部創立100周年記念特別展

## 美の力

4月21日(土)～5月20日(日) 会期中無休

※会期中の5月7日(月)終了後に前・後期の展示替を行います。

会場：石川県立美術館 企画第7・8・9展示室

主催：石川県立美術館

共催：金沢美術倶楽部100周年実行委員会

特別協力：北国新聞社

学術協力：(公財)前田育徳会

本展は、石川県立美術館開館三十五周年と金沢美術倶楽部創立一〇〇周年を記念して、国宝四点、重要文化財三十四点を含む、茶道美術を中心とした逸品の数々約百四十点の展示を通して、美に殉じた千利休が放った「美の力」が当地の個性を確立していった道程を再発見し、地域の視点から、これからの文化の在り方を考える機会となることを期待するものです。

### 展示構成

#### 序章 千利休への道

##### ・主な展示作品

国宝《墨蹟 山門疏》無準師範筆 五島美術館蔵 ※前期

重文《白磁蓮華文輪花鉢》定窯 静嘉堂文库美術館蔵

重文《祭礼草紙》 前田育徳会蔵

重文《曜変天目》建窯 MIHO MUSEUM蔵

#### 第一章 千利休による美の規範と利休をめぐる人々

##### ・主な展示作品

重文《大井戸茶碗 銘筒井筒》※後期

《赤楽茶碗 銘早船》長次郎作 畠山記念館蔵

《赤楽茶碗 銘二郎坊》長次郎作

《書状 六月二十日付 古織宛(武蔵證の文)》 東京国立博物館蔵

千利休筆

《書状 十一月廿二日付有中さま宛》

千利休筆 裏千家今日庵蔵 ※前期

重文《備前矢筈口耳付水指 銘破家》 北陸大学蔵

重文《伊賀耳付水指 銘破袋》 五島美術館蔵

#### 第二章 加賀の文化的求心力

##### ・主な展示作品

国宝《賢愚経残卷(大聖武) 卷第九》 伝聖武天皇筆

重文《墨蹟 梅溪字号》宗峰妙超筆 前田育徳会蔵

重美《井戸茶碗 銘福嶋》 五島美術館蔵 ※後期

国宝《古今集卷第十九残卷(高野切)》 前田育徳会蔵

国宝《古今集(清輔本) 伝藤原清輔筆 前田育徳会蔵

重文《横檜図》 依屋宗達筆

重文《色絵山寺図茶壺》野々村仁清作 根津美術館蔵

重文《四季耕作図》久隅守景筆 当館蔵

#### 第三章 近代・現代の数寄者

##### ・主な展示作品

重文《伊賀耳付花入 銘からたち》 畠山記念館蔵

重文《柿の帯茶碗 銘毘沙門堂》 畠山記念館蔵

#### 関連催事

■講演会 会場・石川県立美術館ホール

講師・熊倉功夫氏

日時・四月二十九日(日) (MIHO MUSEUM館長)

午後一時三十分～午後三時

演題・「前田家と茶の湯」(仮称)

聴講無料、先着二〇〇名

■本展担当学芸員による美術講座(土曜講座)

会場・石川県立美術館講義室

第一講 日時・五月十二日(土)午後一時三十分～

講師・高嶋清栄

演題・「再考 一座建立の精神」

第二講 日時・五月十九日(土)午後一時三十分～

講師・村瀬博春

演題・「千利休 美の哲学」

各講聴講無料、先着五十名

■ギャラリートーク(本展担当学芸員)・四月二十九

日を除く会期中毎日曜日(四月二十二日、五月

六、十三、二十日)午前十一時から

#### 観覧料

一般一〇〇〇円(八〇〇円)

大学生六〇〇円(五〇〇円)

高校生以下無料

※(一)は二十名以上の団体料金

※同一会期で、金沢21世紀美術館と金沢市立中村

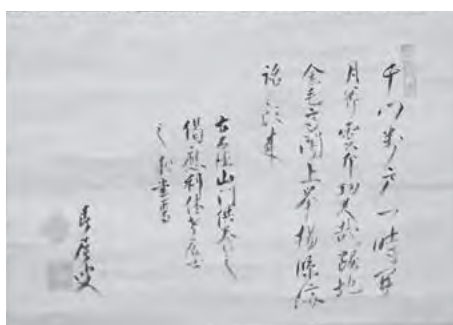
記念美術館で金沢美術倶楽部一〇〇周年記念の

企画展覧会を開催。各展観覧券の半券提示で観

覧料の相互割引があります。



《西行物語絵巻(旧毛利家本) 第三巻断簡》  
依屋宗達筆



《山門偈》 春屋宗園筆

## 茶道美術名品選Ⅱ

4月20日(金)～5月20日(日) 会期中無休

## 学芸員の眼

「千利休の生き様が、加賀百万石を動かした。―秘蔵の逸品 奇跡の邂逅―」本展を謳う言葉は自然に浮かびました。これは、本展を企画・開催するという構想自体も、茶の湯の師・千利休への洞察と共感によって動機付けられた藩祖・前田利家の文化観を基盤とした、文化による戦略的な主体性の表明という文化風土が今日も当地に息づき、文化活動の原動力となっていることを改めて認識させます。その力の源泉こそが「美の力」ではないでしょうか。「論語」顔淵には、「子の曰わく、君子は人の美を成す。人の悪を成なさず。小人は是に反す。」とあります。利休をはじめ本展に展示される作品にこめた作者の思いや、その理解とともに時代を経て作品を守り伝えた所蔵者、そして共に歩んだ美術商の思いも、究極には「人の美を成す」の一語に集約されます。

Ⅱ期は、Ⅰ期の展示から絵画のみが替わります。

最初は、長谷川久蔵の筆と伝えられる《祇園会図》(重美・景文)です。「信長公拝領／利休居士遺具」との千利休の孫・宗旦の添書から、本作は千利休が織田信長から拝領し、終生所持したものであることがわかります。そして内箱の蓋裏に裏千家十一代玄々齋による書付に「母衣武者之図 長谷川久蔵筆」とあることで、筆者は長谷川久蔵とされてきました。しかし、利休が本作を信長から拝領したのは本能寺の変より前であることを考えると、久蔵は十代はじめまでに描いていなければなりません。天才的な画技を持った夭折の画家・久蔵ならばそれもあるかと思いますが、ここは慎重に考えたいと思います。

もう一点は、久隅守景の《四季耕作図》(景文)です。本作は日本的な山水の展開と、中国風俗による人々の営みが絶妙に調和しており、表現の深化

が認められます。左隻春の景には《六祖図》を意識したような人物、夏の景には休憩して寛ぐ一団や鶴飼いの、右隻秋の景には飛雁、《臨濟栽松図》を意図したような人物、犬を叱る人物、そして冬の景には「文士」のポーズで遠い山を見つめる人物などが描かれており、季節の景気や日常性への傾斜と、思想的な深化の双方が、ある種の「おかしみ」をもなった表現に結実しています。なお、左隻の灌漑の作業は農具の向きが逆であり、右隻の糶摺りの石臼は形状から用をなさないと指摘がります。いずれも日常性に注目する「軽み」から「おかしみ」への移行を、反骨精神も交えて表現したものでしょうか。



景文《祇園会図》 伝長谷川久蔵筆

# 特別陳列 名物裂と茶道美術

4月20日(金)～5月20日(日) 会期中無休

## 学芸員の眼

光悦の消息は刀に関するものは一通のみで、謡や謡本に関するものが最も多く、次に茶事やお礼等が続き、数寄者としての親交の深さを物語っています。殊に書写された謡本や、豪華な版本である「嵯峨本」について、内記の所望を斡旋する内容から、内記を介した加賀藩からの謡本の需要に対して、光悦が熱心に仲介役を務める様子が伝わってきます。また、「鼓の筒」、「小鼓ノ筒ノ金貝之事」、「筒」や「笛」、さらには「水入」(水指か)についても多くみられます。こうした謡や茶の湯に関する道具についても光悦は仲介役を務めているのみならず、アートディレクター的な本領を発揮しているともいえます。また、前田家の重臣の中川宗半をはじめ、高山右近、長連龍、前田長種、小幡右京、津田重久、横山長知などの名前が見えるところから、光悦と加賀藩の重臣たちとのネットワークが見て取れます。

本展は同時期に開催する企画展「美の力」が、加賀藩主前田家の文化的背景が千利休を頂点とする茶の湯の精神によるものと再認識する展覧会ですが、初代利家から四代光高に至る時代の前田家の茶の湯を、本阿弥光悦や小堀遠州との書状を通して概観するものです。

本阿弥光悦は、室町時代より続く刀剣の目利や磨礪・浄拭を家業とする京都の名門町衆本阿弥家の別家として、父光二の代より加賀藩の御用を務めています。光悦は、藩祖前田利家や二代利長、三代利常をはじめ、前田家の重臣たちと親交を重ねていますが、加賀藩重臣今枝内記・民部に宛てた消息を展示します。本来は武の象徴である「刀」によるつながりですが、文化政策に藩の存在意義をかけた加賀藩にとって、光悦は京都の洗練された文化人たちとの交流に際して、いかに重要な存在で

あったかを再認識することができます。前田利常と小堀遠州はことに茶の湯において深いつながりがあり、茶の湯白子伝授をなどの点前はもとより、茶の湯の精神性や茶道具の審美眼に至る指導を遠州より受けています。また四代光高も遠州に熱心に茶の湯を学び、点前はもちろんの事、最終的には茶の湯(数奇)の根本についての問答に至っており、前田家の茶の湯を中心とした芸道は、寛永文化の中心的存在であった遠州の美意識が、その規範となっていたことが認識されます。

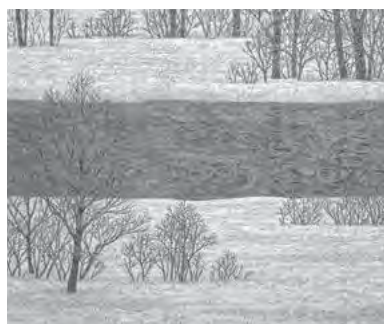
特別陳列 静謐なる世界 —日本画家 仁志出龍司—

4月20日(金)～5月20日(日) 会期中無休

学芸員の眼

仁志出氏の画業を概観するとき、一本の川の流れを想起します。その川のイメージは、豊かな水量を湛えながらも、激流や氾濫もなく常に静かです。豊かな水量は、確かな技術に裏打ちされた自信とも言い換えることができます。自ら思い描いた世界を余すことなく表現できるといふ自信です。それぞれの時期によって用いた種々のモチーフは、流れゆく川辺の風景にも例えられるでしょう。

近年は雪景色と水の構成に材を求め、大小の作品群を発表しています。その様相はまさに変奏曲( variations )といえるもので、様々に表情を変えながら静謐なる作品世界を奏でていきます。展示室では三十四点の作品から、画業自体がいくつもの変奏曲を擁した大楽曲であると感じていただけるのではないのでしょうか。



仁志出龍司 《静景》

このたび、金沢美術工芸大学教授を退官した日本画家、仁志出龍司氏の回顧展を開催します。氏は昭和二十七年、滋賀県守山市に生まれ、金沢美術工芸大学に学びます。入学の年には、画壇の重鎮西山英雄が同大学の教授に就任しており、卒業後は公私を通じて西山に師事することになります。

その経緯を「当然の如く卒業と共に師事することになった。」とも述べており、西山から受けた薫陶や、その影響の大きさがうかがえます。やがて西山の推薦を受けて母校で教鞭を執ることとなり、金沢に居を構え今日に至ります。しかし作風は必ずしも師を受け継ぐものではありません。西山は当時の日本画壇を代表する屈指の色彩画家であり、その作風は、豪奢、華麗と称されました。対する弟子の作品は色彩、構図とも派手さを抑えた静かな情感を湛えています。これは弟子の個性を生かす西山の指導の証ともいえるでしょう。

作品制作には画家それぞれに流儀があります。自らの持つ仕上がりのイメージにむけて、着々と制作を進める画家もいれば、制作を進めるに従って仕上がりも変化し続ける画家もいます。日本画家は多少の差はあっても、前者のタイプが多いようです。明治期以降、主たる発表の場が床の間から展覧会へと移行していきます。大作で、しかもやり直しのきかない絹本を支持体とすることが多く、綿密な下絵・草稿が欠かせないようになりました。遠因はこのようなところにあるのかもしれない。

仁志出氏も明確な完成のイメージに向けて、着実に歩みを進める画家のようです。このような制作方法は、明瞭な制作イメージと、確固たる作画理論に裏打ちされたものといえます。展示作品でご確認ください。



仁志出龍司 《生々》

## 第5展示室[工芸]

# 友禅 水野博

—草花を詠う—

4月20日(金)～5月20日(日) 会期中無休

草花は友禅作家において主要なモチーフの一つですが、水野博はとりわけ春や夏の草花を好んで取り入れました。北陸に住んでいるからこそ春の暖かさが嬉しく、草花の美しさが心にしみるのだという言葉を残していますが、水野の作品には身近な草花が多く、描かれた草花はその姿形を写すだけでなく、抑制のきいた表現の中に自然の息吹が表れています。写生に基づく丹念な描写と、巧みな画面構成、効果的な色使いの作品は、制作後四十年を経た今もなお、多くの人々を魅了しています。

今回コレクション展示の第五展示室では、石川県立美術館の所蔵する水野博の作品から、春夏の草花を描いた着物作品を一室に公開します。画像で紹介する《友禅訪問着「芽」》は、芽吹きかけたネコヤナギでしょうか。すつと伸びた枝の絶妙な配置により、余白に空を感じさせます。枝に

不自然なところがあれば、余白は単なる隙間以上にはならないでしょう。モノクロ画像では分かりませんが、枝の色は多くが褐色で、青緑・黄・赤のパステルカラーを入れています。画面に生命力を加えるとともに、自身の春への渴望を芽吹く枝に重ね合わせたかのようです。水野の描く草花がどこか親密な空気を湛えているのは、身近な自然の小さな息遣いを見つめる、自らの想いを投影させているからではないでしょうか。

今年の北陸は記録的な豪雪に見舞われ、三月も中旬を過ぎて、ようやく陽射しが春らしくなりました。水野の作品から、改めて花咲く季節の美しさを感じていただければ幸いです。



水野博 《友禅訪問着 芽》

## 春のミュージアムウィーク

新緑の兼六園周辺文化の森を満喫する「春のミュージアムウィーク」。当館関係のイベントをすこし紹介しましょう。

### ◆展示室でスケッチGO!

5月6日(日)午後1時～3時(所要時間約40分)。  
気軽に参加いただけるプログラムです。

### ◆パネル展示「よみがえった文化財」パネルによる修復実績の紹介

4月28日(土)～5月6日(日)、平成29年度の石川県文化財保存修復工場の修復実績について、指定文化財を中心にパネルで紹介いたします。入場無料です。  
5月3日(木・祝)には展示解説を行います。詳細は下記行事予定をご覧ください。

会場：石川県立美術館広坂別館和室  
時間：午前9時30分～午後5時

## 5月の行事予定

20日(日)	極める・日本の美と心 本法寺(26分) 悠久の中国やきもの紀行 青磁のふるさと 龍泉窯(31分)
13日(日)	極める・日本の美と心 建仁寺(26分) 悠久の中国やきもの紀行 幻の天目茶碗 建窯(31分)
26日(土)	中国の茶書を読む2 『茶経』その2 午後1時30分～ 美術館講ホール 入場無料
19日(土)	千利休 美の哲学 午後1時30分～ 美術館講義室 聴講無料
12日(土)	再考 一座建前の精神 午後1時30分～ 美術館講義室 聴講無料
3日(木・祝)	修復技術者が修復作品や修復内容を解説します。 ①午前10時30分～ ②午後2時～ 広坂別館和室 聴講無料
3日(木・祝)	修復技術者が修復作品や修復内容を解説します。
3日(木・祝)	修復技術者が修復作品や修復内容を解説します。

## 出世街道はじまります

平成二十八年度から美術館はじめ歴史博物館、能楽堂などの兼六園周辺の文化の森の文化施設では、「進め！ 出世街道」と銘打った小中学生を対象としたスタンプラリーを行っています。石川ならではの各館で催されるいろいろな体験メニューに参加するとスタンプがもらえ、集まったスタンプの数に合わせて足軽、大将、大名、將軍へと出世していくものです。昨年、すでに將軍までたどり着いた子どもも、年度が替わると位ごとにももらえる景品も新しくなるため、毎年チャレンジしている子どもたちも多いことでしょう。



学校での団体鑑賞の機会がないと、美術館などの文化施設に来館することなく、大人になってしまうこともあることを考えると、このようにゲーム感覚でもいろいろな施設に来館する機会が持てることは、文化施設に親しむ良い機会となっています。

美術館では、年間を通じて子どもパンフレットを使った、「美術館たんけん」の活動や、ミュージアムウィーク毎に行っている「スケッチGO」の活動、また、展示室での親子の鑑賞講座がスタンプ対象となっています。今年度もスタンプ帳を手に出世街道まっしぐら。文化將軍になることを目指すたくさんの子どもの来館をお待ちしています。

## 国際博物館の日

五月十八日(金)は、国際博物館会議(ICOM)が提唱する「国際博物館の日」です。この日は、例年通り当館ではコレクション展の観覧を無料とします。

## 平成30年度 土曜講座(前期)

年間を通して本館講義室で土曜日に開講している土曜講座、本年度は二十五回の講座を予定しています。本年度も年間を通じた共通テーマを設けず、自由な講座内容となっています。内容としては、企画展や特別陳列・特集の開催などの期間にあわせ、展覧のさらなる理解の深化、また展示解説だけでは語り尽くせない関係事項についての解説講座。また学芸員の日常的な業務にかかる内容、さらに独自の調査研究による講座等々、多彩な内容となっています。是非当館のご鑑賞と併せて聴講してください。講座は申込不要、聴講無料です。どうぞお気軽にご参加ください。

No	月/日	タイトル(予定)	担当
1	5月12日	再考 一座建立の精神	高嶋
2	5月19日	千利休 美の哲学	村瀬
3	5月26日	中国の茶書を読む2 — 『茶経』その2—	村上
4	6月16日	日展と工芸美術	寺川
5	6月23日	絵画の見方 — 賛と落款—	中澤
6	6月30日	宗達から若冲へ 仏教的深化の系譜	村瀬
7	7月21日	「耕織図」の楽しみ — 近世日本絵画を例に—	有賀
8	9月8日	鴨居と教会	二木
9	9月15日	文化財を護る — 文化財保護法と国宝—	谷口
10	9月22日	金沢と漆皮	有賀
11	9月29日	日本工芸会 漆芸部会の作家たち	寺川

## 《友禅訪問着 春》ゆうぜんほうもんぎ はる

丈173.0 裄68.0cm 昭和46年(1971) 第18回日本伝統工芸展

水野 博 みずの・ひろし

大正7年～昭和54年(1918-1979)



「春」という名称の通り、菜の花畑をテーマとした訪問着です。右袖の下部から左前身頃上部にかけて上下で色合いを変え、上方は黄色、下方は紫を主調としています。色替わりの境界にあるが、黄から紫のグラデーションになっていることから、夜が明けて菜の花畑が徐々に陽光に照らされていく様子を表すと同時に、冬から春へと移り行く季節を表し、大きな時間の流れと広々とした空間を感じさせます。

少し離れた場所から群生として見ても近づいて仔細に見ても、花の巧みな描写が際立ちますが、身頃を掛け合わせて立体的な人体に着せることで、色の変化が生き生きとした印象を与え、単調になりがちな小振りの花の連続模様に複雑な構成が生まれます。着物の意匠としても非常に考え抜かれていることが分かります。

作者の水野博は富山県に生まれ、京都で活動していた友禅作家・土屋素秋に弟子入りして修業するかたわら、師である土屋の勧めに従って池田瑞月に日本画を学びました。水野が植物の描写に長けていたのは、博物学的な細密描写の植物画に生涯をかけて取り組んだ池田の影響とも考えられます。豪華な桜ではなく、可憐な菜の花で春のよるこびを表した本作は、水野の作風を象徴するものと言えるでしょう。

## 次回の展覧会

5月24日(木)  
～6月17日(日)  
会期中無休

前田育徳会尊経閣文庫分館

第2 展示室

前田家 武の装い I

加州刀と加賀象嵌鏡

第3～9 展示室

改組新第4回 日展 金沢展  
5月26日(土)～6月17日(日)  
会期中無休

## ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 360円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※( )内は団体料金

毎月第1月曜日はコレクション

展示室無料の日(5月は7日)

今月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00 年中無休

5月の休館日は

21日(月)～23日(水)

～遺品整理・骨董品の処分・蔵、空家の片付けをお考えの方～

骨董買取専科 にご相談下さい。

出張料(石川・富山・福井)見積り 無料

お問い合わせは



0120-86-3445

石川県金沢市福久町ヲ 119-1  
国道8号線福久南交差点角

広告



高価買取

石川県立美術館だより

第415号(毎月発行)

2018年5月1日発行

〒920-0963

金沢市出羽町2番1号

Tel: 076(231)7580

Fax: 076(224)9550

URL: <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>